友　和

NO.578
発行日　令和７年６月１日
発行　社会福祉法人　友和の里
〒738-0203
広島県廿日市市友田 218-38
TEL0829-74-2157 FAX0829-74-2154
HP：http://yuuwanosato.com/
発行者　理事長　河野義刀

いいお天気の日に野菜の苗を黒ポットから取り出して畑に植えました。日よけ対策の農作業用の帽子をかぶって。　字：三宅一総

アート活動を始めて2年目がスタートしました。始めたばかりの頃は、何をしたらいいか分からず積極的に参加出来なかった利用者さんも、アート活動のお部屋に入ると絵を描く事が分かったのか、画用紙に向かい楽しそうにされる事が多くなりました。
アート活動では、様々な道具や色を使い、画用紙に絵や利用者さんの好きなものを自由に書いていただきます。スポンジでポンポン色をつけたり、ハケや筆を使いサラサラ描かれる方もおられ、いろいろな表現がある事を職員一同勉強させられました。また、最近では天気のいい日に外で絵を描いており、開放感と自然の景色を感じながらインスピレーションを得て、素晴らしい作品を作られております。また6月13日には、講師のくぅ~さんをお招きして、「カラダのこえを聞く」というテーマで、体で表現するアートに挑戦します。次回の友和だよりに様子を載せる予定ですので、どうぞご期待ください。

（生活支援員　梶村悠真）

石本彩子（いしもとあやこ）さん
こんなに活動を楽しんでくれるとは思いませんでした。意欲マンマンでつぎつぎと道具をかえて描かれました。

高下美香（こうげみか）さん
初回は椅子に座ることにもためらいがあって、落ち着いて参加が難しかった高下さん。２回目からは自発的にクレヨンやスポンジをつかってポンポンと色を画用紙にのせてくれました。

星川忠亨（ほしかわただゆき）さん
線路と電車を先に描いてから、隣の席の中田さんの絵を真似して菜の花畑を描かれた。いつも携帯している岡田奈々さんのイラストとまちぶせの歌詞はアート活動の時も必須アイテム。好きな「まちぶせ」の歌を職員に歌ってもらって、ご満悦な表情をしていた。

小西邦彦（こにしくにひこ）さん
「ももちゃん」と声に出しながら文字を描く。名犬ジョリィ、ましんせんたいキラメイジャー、メントス、月桂冠など唱えながら。とってもいい顔だった。最後、画用紙を小さくちぎって重ねて終わっていた。

和泉広司（いずみひろし）さん
人物画を描く。細い筆で優しいタッチの描き方。顔から出ているのは耳と頭の上にあるのは角？「もっと描いて」と職員に言われて仕方なさそうに、描いてくれる。

廣崎浩司（ひろさきこうじ）さん
初の試み、チャレンジャーの廣崎さん！外で絵を描く。空や鳥をみたり、鳥の鳴き声など気になるものがいっぱい。そんななかで画用紙にむかっていた。何を見ているのか職員が観察すると、ツバメを見ていたそう。ツバメを眺めながら気持ちのいい屋外で、手を動かしていた。

柳井伸宏（やないのぶひろ）さん
スポンジをつかってポンポンと色を載せていく。力がつよくてスポンジの柄が折れてしまった。隣の席の星川さんの様子が気になって、足で床をけって移動していた。

堂面（どうめん）なみさん（生活支援員）
利用者さんがいつものホールにいる時とは違う表情をしていると思いました。アート活動は小集団での活動なのでじっくり様子をみれたり反応を観察することができる。廣崎さんと外で過ごした時、鳥の声をきいて反応する廣崎さんを知ることができました。
普段は同姓だったり担当グループの利用者さんにかかわることが多いので、１対１の個別対応は難しいことが多い。利用者さんもずっと大人数だと疲れてしまうかも、たまに少人数で過ごすことでリラックスすることができるのかなと思いました。

乙原潤（おとはらじゅん）さん（生活支援員）
日中活動の種類が増えたと思います。ホップ・ステップ・ジャンプの活動班での活動、レクリエーションどちらとも違うアート活動。アート活動は自立を目指したり、スキルをのばしたりなど最終目的がある活動ではなくて、完成がない。かかわってみる中で、一人ひとりの違いが改めてよくわかりました。

ヒューガノリコ（地域交流支援員）
毎回アート活動に参加しながら、今回はどんな表現に出会えるのかなあと楽しみにしています。回数を重ねる中で、職員の指示をじっと待ってる方は減ってきましたが、机に向かってする創作が難しい人もおられ違うアプローチがないかと考えています。これからも笑ったり、びっくりしたり、緊張したり、慎重になったり、いろんな感覚を職員・利用者ともに豊かにしてくれる活動をめざしていけたらなと思います。

アートレンタル事業のご紹介

ダイハツ広島販売株式会社の直営店 21 店舗に障害のある人の絵画作品をレンタル展示する事業が展開されています。この度、ダイハツ広島販売大竹店での作品展示を友和の里入所部が請け負うことになりました。3 か月に 1 回の入れ替えを行います。7 月まで西田亨也さんの作品が店舗内に展示されています。一般見学可能です。
ダイハツ広島販売大竹店（大竹市小形 1 丁目 2-6）

陶芸班　ゴム入れ作業と干支の型流しを頑張っています。数も揃ってきたので干支の素焼きをして色付けの準備を進めていきます。利用者皆さんの頑張りのおかげで、例年より早いペースで完成が見込まれ、今年も例年通り、干支の作品が販売できそうです！
（生活支援員　朝川 泰貴）

創作班　今回から創作班のメンバーを紹介したいと思います。第一回目は松浦暢さんです。松浦さんは、ウエスの周りに付いている糸状の繊維を１本１本丁寧にとられています普段はお話が好きで皆さんとワイワイされていますが、作業中は職人のような集中力で、黙々と作業をされています。１日２時間程度の作業も集中力が切れず手を動かし続けるため「大丈夫かな？」と心配になるくらいですが、作業後は疲れも見せず、他利用者様や職員とお話をしながら笑い合う姿もみられているので安心しています。今回は、メリハリのある職人、松浦暢さんを紹介しました。また次回をお楽しみに！！　（主任生活支援員　山田 憲志）

貝通し班　生活介護および就労継続支援Ｂ型の利用者の皆さんは、引き続き貝通し作業を行っており、皆さん毎日安定して作業されています。集中力と丁寧さが求められる作業ですが、毎日コツコツと貝を通し続け完成した採苗器がこんなにたくさんになりました。写真に納まりきっていないものもあります。
（生活支援員　冠 茜）

療育班　本年度から、療育班では畑作業も本格的に進めていくことになりました。遊歩道にあるしいたけの原木に種を植え付ける作業を始め、カボチャやきゅうり、トマト、ナスなどの野菜の植え付けをこれから利用者の方と一緒にしていき、収穫の喜びを楽しんでいきたいと思います。　（生活支援員　濱田吉弘）

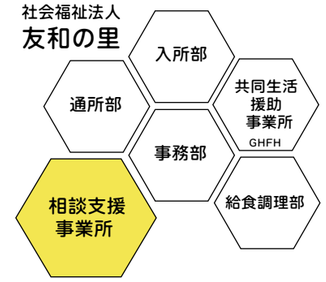
シイタケの菌うち

ほだ木も自前のシイタケ栽培。友和の里ではずいぶん前からシイタケ栽培が続いているようです。友和の里の山から職員が切り出したコナラの木を使っています。木の穴にシイタケ菌をトンカチでたたいて入れて行く作業をみんなでしました。おそるおそるたたく李さん、道具を使わず指先をつかって菌をねじこむ永中さん、住高さんは職人のようなトンカチ裁きで何個も菌を打ち込んでくれていました。入所部からもたくさん手伝いに来てくれました。来年もたくさんのシイタケがとれますように。（地域交流支援員　ヒューガノリコ）

新”企画

『社会福祉法人友和の里を紹介します』について

友和の里では障害のある方への直接支援などの日常業務に加え、複数の専門職による福祉サービスや相談支援、地域との公益的な取組など多様な福祉の仕事が展開されています。なかなか知られることが少ないリアルな障害福祉の情報、これを発信することで課題となっている人材の確保や、保護者や地域の方への安心感につながり、ひいては現在 89 名いる職員間でも情報共有につながればと考えています。



初回は次号７月号で**相談支援事業所**をご紹介をします。地域交流支援員として働く私に地域の人からよく聞かれるのは「あそこは何しよるところなん？」です。元江島歯科医院だったオレンジ色の瓦の平屋の建物は**コミュニティーハウス**と呼ばれています。県道沿いの交通の便のいいところにあります。友和の里の看板が大きく掲示されているため地域の人も関心を持ってくれています。ここも専門員が在中している友和の里の仕事場のひとつになります。これから、ざっくばらんに福祉の仕事をご紹介していきます。どうぞご期待ください。　（地域交流支援員　ヒューガノリコ）

相談支援事業所の専門員が在中しているコミュニティーハウス

職員突撃インタビュー

今回は働きはじめて5年目をむかえる冠 茜さんにインタビューしました。

友和の里を職場に選んだ理由

子どもが２～３歳の時、保育園に合わせた働き方ができる職場を探していました。福利厚生もしっかりしていたので友和の里を選びました。パートでスタートして少しずつ日数を増やして、３年目に正社員になりました。

働くお母さんの毎日って？

ずーっとバタバタです。夕方は特に忙しい。17時30分に終業してから18時に保育園に迎えに行って、19時に帰宅します。夕食をつくって食べさせて入浴と宿題のチェックをしたら21時になります。全力疾走している感じですが、充実しています。

お母さんの楽しみは？

車の中でする子どもとのおしゃべりが楽しみです。できるだけ話をする時間を作っています。何かあったら学校の先生に連絡帳で教えてもらったりして、みんなで子どもを育てているような感覚です。できるだけ子どもの訴えには応えてあげたいと思っています。

いいお母さんでいようと以前はがんばっていました。でもありのままの自分を子どもの前でさらけ出すことにしたんです。疲れたらスーパーの惣菜ですませたり、子どもたちが好きなマクドナルドにいくこともあります。いいお母さんを演じるのをやめたら子どもも我慢していたことなどいろんな話をしてくれるようになりました。

職場のアピールをお願いします

子どもが病気になったりすると「ゆっくり診てあげんちゃい」とゆってもらえるような職場です。子育てしやすい職場だと思います。看護休暇制度などもあり助かっています。子育てしながら働くことで、孤立せず地域で住みやすくなったと感じています。

これからについて

家族で鳥取へカニを食べに行きたいです。海鮮丼も食べたい。おいしいものを家族で食べたいです。

恥ずかしがりやの冠さん、二人の子どもを育てているお母さんです！

トピックス

みどりおり

字：塩田兆優

【かいしょび】

通所部は基本平日を開所日としていますが、毎月第３土曜日にも「開所日（かいしょび）」を設けています。この日は作業活動はお休みで、レクリエーションを兼ねた活動をみんなでたのしみます。創作の日もあれば、ボッチャのようにスポーツの時もあります。

☆来月はモルックの予定です☆

※ボッチャとは？

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ６球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。カーリングのように、相手のボールを弾（はじ）いたりして、自分が優位に立てるよう位置取りをしていきますが、的も弾いて移動させることができるため、カーリングとは一味違う戦略、魅力がある競技です。

通所部【ワクワク通信】

５月の開所日は皆さんでパラスポーツである「ボッチャ」を行いました。ボッチャはルールが簡単で誰でも気軽に楽しめるスポーツです。当日は作業班で親睦を目的とした対抗戦を行いました。ゲームが始まると、狙いを定めて真剣な表情になる人、うまくいってガッツポーズをする人、大きな声で笑い声が出る場面など、終始にぎやかな雰囲気でボッチャを楽しみました。「またやりたい！」という声もたくさんあがり、大好評のボッチャとなりました。

今回のボッチャは特に武永（たけなが）さんが熱心に参加されていました。開始前から「今日のボッチャを楽しみにしていた！」と意欲マンマン。職員からのルール説明は真剣に耳を傾け、ルールや投げ方をしっかりと理解しようという姿勢でした。ゲーム中は投げるたびに表情が豊かになり「もう一回やりたい、次はうまく投げる！」といった言葉が出ていました。終了後には「またやりたい！」と話され、その熱意と笑顔は周囲の利用者の皆さんと職員に、大きな元気を与えてくれました。

（生活支援員　井場　孝行）

入所部【Ｇｗ外出】

５月４日午前と午後の二組に分かれて、バスに乗ってレイクプラザやさかへドライブに行ってきました。自分で好きなジュースを購入し、近くの広場で自然を楽しみながらジュースとお菓子を食べて過ごしました。お菓子は職員が外出用に準備し、さまざまな種類を袋詰めにして、皆さんに楽しんで頂けるように工夫しました。大変好評で、あっという間に食べられていました。

皆さんとても楽しまれたようで、帰りのバスの中ではウトウトされる姿も見られました。充実した一日なり楽しい思い出になりました。

（生活支援員　堂面　なみ）

絵：中田 勝一

【バーベキュー】

５月４日（日）毎年の恒例行事となりましたグループホームゆうわバーベキューを行いました。天候にも恵まれ入居者の皆さんも朝からウッドデッキへ椅子を運ぶのを手伝って下さりバーベキュー開始を心待ちにしておられました。バーベキューが始まるとお肉の焼ける香に包まれ皆さんの食欲も全快になられたのでしょうか。焼けたお肉を提供するもお肉が焼けるのが追い付かないペースで食べられ「次はまだかな？」の視線を向けておられました。今年も食事を済まされた入居者の皆さんの満足されたお顔を見ることが出来、職員もとても楽しく過ごせた日となりました。

（生活支援員　永中　崇裕）

ウッドデッキで楽しむバーベキュー

【きゅうぎたいかい】

５月25日（日）令和７年度広島県西部地区知的障害関係施設親善球技大会にグループホームゆうわ入居者５名、短期入所者１名がフライングディスク競技に出場しました。結果は、２名の方が決勝２回戦進出を果たし、大健闘しました。懸命に試合に臨む方、マイペースに試合を展開する方など、三者三様のプレースタイルが見られました。楽しむ気持ちを忘れずに、次回も参加できたらと思います。

（生活支援員　岡田　泰祐）

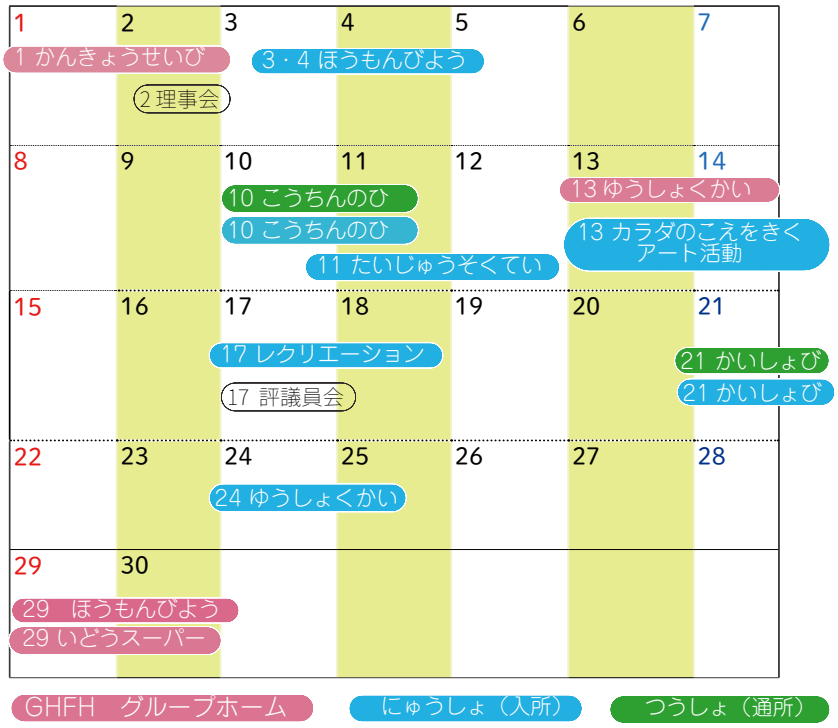
【サツマイモ植え付け】

５月23日に「紅（べに）はるか」150本を植え付けにいきました。今年は９名職員が集まって作業をしたので、あっという間に植え付けをすることができました。今年は垂直植えで植えました。「昔から【仕事は多人数旨いものは小人数】ということわざがあるよ」と教えてくれたのは職員の八田（はった）さん。毎年、サツマイモの植え付けに参加している大ベテランです。今年は立札も新しく作りました。11月の友和の里まつりでは行列のできる焼き芋屋さんで販売されるサツマイモになります。おいしいお芋がたくさんできますように。

甘日市市津田の津田小学校前にある芋畑にて

6 友和の里行事予定

6/1日　岩組地区環境整備（GHFH）
6/3.4 水木　訪問美容（入所）
6/10 火　工賃支払日（通所・入所）
6/11 水　体重測定（入所）
6/13 金　夕食会（GHFH）
6/13 金　アート活動（入所）
6/17 火　レクリエーション（入所）
6/21 土　土曜日開所日（通所・入所）
6/19 木　感染防止研修会（GHFH）
6/24 火　夕食会（入所）
6/26 木　感染防止研修会（入所）
6/29 日　移動スーパー（GHFH）



【天日干し】

天気のいい日の午後の風景。冬ふとんがたくさん入所棟前のフェンスにかけてありました。風がふいていて、そばへいくとシロツメクサのいい匂いもしました。そろそろ衣替えの季節ですねー。

【ツバメの巣】

ＦＨ（フレンドホームゆうわ）の軒先にツバメが巣を作ろうと飛び回っています。ウッドデッキが泥で汚れる日々が続きましたが、ツバメ避けのすだれを取り付け、汚れ防止に成功！諦めて別の場所へと・・入居者の方々は「わ～綺麗じゃね」と、ひらひらと揺れるすだれを興味深く眺められ、のんびりほっこりする時間でした。

（生活支援員　正木 はるみ）

ご寄付の紹介

下川 和子さま
西福寺仏教婦人会さま
たくさんのご寄付を賜り厚く御礼申し上げます